

第24回日精診チーム医療・地域リハビリテーション研修会 大阪大会

市民公開講座

発達障害者支援法ができて、今年で20年になります。さまざまな制度が作られ、合理的配慮も進んでいます。発達障がいと呼ばれる人たちの多くが、育ちやすくまた暮らしやすく、あるいは働きやすくなりました。

発達障がいという言葉はすでに日常語になり、理解も広がり、良いことづくめなのかというと、必ずしもそうとはいえません。コミュニケーションが苦手なだけで自閉ではないかと職場で噂されたり、子どもっぽい元気の悪ガキがADHDだから薬を飲めば良くなると学校の先生から「治療」をすすめられたりすることもあります。

発達「障がい」はあくまでその人と他の人や社会環境との「つながりの失調」として起こる問題です。

この市民講演会では、「つながり」を軸に、発達障がいと呼ばれる問題の現在を当事者、支援者それから一般市民の皆さんと一緒に考えたいと思います。

「発達凸凹」とつながる

—自分とのつながり、
家族・社会とのつながり、
仲間とのつながり—

参加費
無料

定員170名
申込制／先着順



お申し込み方法：

第24回日精診チーム医療・地域リハビリテーション研修会大阪大会ホームページ上の市民公開講座よりお申し込み下さい。
<https://daiseishin.org/team-reha2024osaka/public/>

総合司会 長谷高 純一〔西浦クリニック 副院長・精神保健福祉士〕

第1部『つながることで見えること—発達凸凹当事者からの提案—』
広野 ゆい さん〔NPO法人 DDAC 代表〕

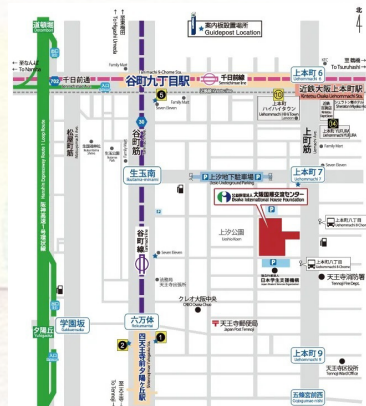
第2部『グレーゾーンについて考える』
大久保 圭策 さん〔大久保クリニック院長〕

第3部 当事者と考える（セルフヘルプグループの現状と課題）

2024年2月22日(木)
15:00-17:00 (開場14:30)
大阪国際交流センター
2階 小ホール

(〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6)

大阪メトロ 谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅、近鉄「大阪上本町」駅



主催：(公社)大阪精神科診療所協会・(公社)日本精神神経科診療所協会

後援(予定)：大阪府、大阪市、堺市、大阪府医師会、大阪精神科病院協会、大阪府看護協会、大阪府臨床心理士会、大阪精神保健福祉士協会他